

平成 28 年度事務事業評価表(一般事業・継続)

No. 505

事務事業名	学校適応指導教室運営事業	
基本目標	010203	人を育むまち
政策		豊かな学力と生きる力を育む教育の充実
施策		教育環境の充実
関連施策		

作成日	平成 28 年 9 月 30 日		
部局名	教育委員会		
課名	学校教育課		
課長名	丹野平三	内線	365
担当者名	松尾 勉	内線	366

事業類型	4	ソフト事業(任意)
個別計画		
重点事業		

会計	一般会計		
款	10	教育費	
項	01	教育総務費	
目	02	事務局費	
事業コード	110000		

【PLAN(計画)】

対象(者)	市内不登校の児童生徒		
意図	学校に行けない児童、生徒に集団生活や学習活動を通じて ①生活のリズムの確立やコミュニケーション能力など社会性を身につけさせる。 ②最終的に、学校へ復帰できるようにする。		
事業概要	指導主事、相談員1名、補助指導員3名により支援プログラムを立て、集団活動や学習を指導する。学校や集団活動に適應できるよう個別に規則正しい生活を行うよう指導し、併せて社会性を育成する。		
事業期間	平成 9 年度 ~ 平成 年度	実施方法	直営
根拠法令、要綱等	大村市少年センター運営協議会条例 大村市学校適応指導教室設置要綱		
国・県補助事業に係る本市単独施策			

【DO(実施)】

指標名(上段:名称/下段:算定式等)		単位	25年度	26年度	27年度	28年度	備考
活動指標	① あおば教室通級児童生徒数	計画値	20	20	20	20	
		実績値	16	18	19		
	あおば教室(学校適応指導教室)	達成度	%	80.0%	90.0%	95.0%	
		計画値					
成果指標	① 学校への復帰の状況、教室への入級状況を定期的に確認する。	計画値					
		実績値					
	達成度	%					
	計画値						
②	実績値						
	達成度	%					

年 度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	全体計画
① 事業費(千円)	5,827	5,827	5,609	6,103	6,751	6,751	6,751	0
国庫支出金								
県支出金								
地方債								
その他	23	23	23	26	26	26	26	
一般財源	5,804	5,804	5,586	6,077	6,725	6,725	6,725	
② 人件費(千円)	2,137	2,039	1,158	1,454	事業内容	事業内容	事業内容	備考
職員人数(人)	0.25	0.25	0.15	0.20				
時間外勤務(時間)	75	75	50					
嘱託等人数(人)								
フルコスト(①+②千円)	7,964	7,866	6,767	7,557				

※財源内訳中の「その他」には、保険料・寄付金・基金・利用料等の収入を記入しています。

【CHECK(評価)】

<b>事業の進捗状況</b> 昨年度の評価から、どのような取組をしましたか(昨年度の【ACTION】の改善・改革の進捗等)	平成27年度は19名の通級児童生徒に対して、学習指導及び生活指導を行い、学校復帰に向けた登校チャレンジをすることができ、3名が高校へ進学した。補助指導員の3名が4月から配置されたことにより、通学の援助や家庭への訪問など充実した支援ができています。また、週1回の臨床心理士による面談で通級児童生徒の心のケアと、スタッフへの専門的アドバイスにより一人ひとりの児童生徒に対し適切な指導ができています。
<b>事業が抱える問題・課題等</b>	通級生の増加により、教室が手狭になってきている。また、ここ数年の通級生は、中学生のみであるが、小学生の不登校者に対する取組にも役立てたい。教科等の指導に加え、生徒指導面や基本的な生活習慣の支援など補助指導員の業務は多岐にわたる。現在の3名の体制から増員し、支援の充実を図る必要がある。また、学習面の支援や生活リズムを崩さないためにも、長期休業中や終了後の3月の通級に係る補助指導員の予算の確保が課題である。

妥当性	【必要性】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	学校への復帰を目指す一つ前のステップがあることは、不登校傾向にある児童生徒にとっては心理的な支えとして欠かせない教室である。また、不登校の児童生徒と学校をつなぐ機能を体制として位置付けることは非常に重要である。						
有効性	【市の関与】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	市内の不登校児童生徒が対象であり、小・中学校や、その他の関連機関との連携が大切なので市の関与が必要である。						
効率性	【事業成果】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	家の中で不規則な生活をしてきた児童生徒が、あおば教室に通級することで、生活のリズムを取り戻し集団生活ができるようになった。						
効率性	【施策貢献度】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	市内小・中学校及び学校教育課、こども家庭課など関係者が連携をとりつつ、臨床心理士による児童生徒の心のケアにつとめ学校復帰を目指すことは教育相談体制の充実につながる。						
効率性	【コスト】	削減の余地なし		削減の余地あり		該当なし	
	必要最低限の経費で運営しているため、これ以上の削減はできない。						
効率性	【負担割合】	見直しの余地なし		見直しの余地あり		該当なし	

※事業類型が1～3に該当する事業については妥当性及び有効性の評価は記入していません。

【ACTION(改善・改革)】

今後の方向性	現状維持	
--------	------	--

<b>内容</b> 今後の方向性のもとで、どのような取組をするか(課題や問題点等に対する取組など)	あおば教室は、不登校児童生徒の心的ケア及び学習を保障する場であり、学校復帰への大きなステップボードになっている。不登校児童生徒及び保護者等の面接からも教室の存在価値は大きいと判断しており、継続が必要である。
<b>効果</b> 事業の改善・改革によって期待される効果は何か	家から一歩も出ることができなかった児童生徒が、あおば教室に通級することで、生活リズムを取り戻し、学校復帰につながる。

1次評価	今後の方向性	担当者意見のとおり		2次評価	対象外	今後の方向性
	終期設定				終期設定	
	意見等	本市教育の課題である不登校数の減に向けて、適応指導教室意義は大きい。さらなる充実を図りたい。			内容	

※1次評価は事業担当課長等、2次評価は2次評価委員会によって行われます。